

礼拝さいこう

巻頭言

ハバククの祈り

恵泉バプテスト教会 千野 肇

預言者ハバククは、ヨシヤ王の死後から南ユダ滅亡に至るまでの間、恐らくはBC600年前後に活動したといわれています。助けを求めて叫んでも主は聞いてくださらず、「暴虐と不法がわたしの前にあり」、「正義はいつまでも示されない」という彼の言葉から（1章2～4節）、その目に映る南ユダ王国内部の腐敗と混乱に対して悲痛な叫びをあげ、やむにやまれず預言者として語らいただいたことが、うかがいしれます。

1章と2章で、ハバククの嘆きと、それに対しての主の答えが記された後、3章では、預言者ハバククの祈りとして「賛美の歌」がつづられています。ラストの1行には「指揮者によって伴奏付き」とありますので、この祈りには恐らくメロディーがあったのでしょう。悲惨な当時の様子が語られた後、この章は驚くべきことに、「しかし、わたしは主によって喜び、わが救いの神のゆえに踊る」という賛美で結ばれゆくのです。

これまでの歴史の中で多くの民はハバククと同じように、その時代その時代の痛みの中で、叫びの声を歌として与えられ、主の心を尋ね、救いを求めてきたのではないのでしょうか。

『新生讃美歌』の「まえがき」にも、詩編40編2～4節の聖句をひいた後、このように記されています。「主は人の喜び、悲しみ、苦しみに耳を傾けてくださいます。その人の思いや声にこたえて、主は、新しい歌を、神への賛美として与えてくださいます。」と。

私は、『新生讃美歌』の大切な役割がここにあると思うのです。私たちバプテストが主から与えられた新しい讃美歌を歌い続け、これらの賛美歌を次の世代へと継承し、さらに新しい賛美歌が与えられていくという大切な役割が。

今、沖縄や福島で起こっている出来事を見ますと、私たちが生きているこの現代社会もハバククの時代に劣らず、暴虐と不義とに満ちた時代であると思わざるを得ません。その労苦のただ中であって、より一層隣人に仕え、隣人と共に歩もうとするキリスト者の賛美を、私たちがまた歌っていきましょう。

その叫び、痛み、悲しみを。そこに、救い主、主イエスが必ず伴われることを。そして主の国を待ち望む祈りを。

そのために『新生讃美歌』がこれからも用いられ、そしてさらに新たな賛美歌が主により与えられ、進化して行くことを、願ってやみません。

平和を願う賛美歌として

教会音楽専門委員 踊 真一郎 (久留米)

『新生讃美歌』385番「すべての人に宣べ伝えよ」

大正、昭和時代に日本の賛美歌を広めるために活躍し、163番「きよしこの夜」の訳詞や205番「まぶねの中に」の作詞でも知られる由木康牧師が作詞し、1936年に個人賛美歌集『堅琴』にて発表したのがこの「すべての人に宣べ伝えよ」です。日本基督教団讃美歌委員会が編集した『讃美歌略解』や『讃美歌21略解』には「福音（良き知らせ）を広く宣べ伝えるべきことを単純平明に歌ったもの」とありますが、加えてこの賛美歌が作詞された1936年当時の日本の背景をみると、1929年の世界恐慌後の不景気のため軍部の力が台頭し、1931年に柳条湖事件（日本軍によるでっちあげの鉄道爆破事件）をきっかけに満州事変が起こり、1932年に5.15事件で犬養毅首相が殺害され、1933年に日本は国際連盟から脱退、1936年に2.26事件、翌1937年には日中戦争が始まった状況であり、そのような戦争へと一直線に突き進む時期である1936年にこの賛美歌は発表されていることを見過ごすことはできません。そのような状況にあって、諸教会はこの賛美歌をどのような思いを持って受け止め、歌ったのか、また、この時代に照らし合わせて私たちの歌としても検証していく必要性を感じています。

2番「まことの幸を求めつつも、空しきものにさそわれゆく、世の同胞（はらから）」、また、3番「十字架のうゑに死にたまえる御子こそ永久の救いなれや」は、今この時代においても、「自分たちが仰ぎ従うのは、十字架で私たちを救ってくださった救い主イエス・キリストだ」という叫びと、そこには「まぶねの中に」の中で「人となって私たち人間に神さまを示してくださったイエスさまへの信仰に立ち返れ＝この人を見よ！」との作者の呼びかけとして、私の心に響いてきます。

今年も各教会・伝道所にて平和を覚える礼拝がもたれるでしょう。私はその中で、あらためてこ



の賛美歌を集った方々と、今の私たちの状況と重ね合わせて検証し、歌いたいと願わされています。平和憲法を骨抜きにし、福島や沖縄をはじめとして犠牲を正当化し、人の尊厳を踏みにじる今の日本において、私たちは何を主とし、どう生きるのでしょうか。その問いを受け、「もう二度と空しきものにさそわれずに、キリストの平和を作り出す者となろう」という願いと祈りを込めて歌いたいです。

新生讃美歌の学び

教会音楽専門委員 森 洋子（函館美原）

教会組織9年目の函館美原教会は、伝道所時代からの信徒よりも、教会設立後に信徒となった方の多い、若い教会です。毎週水曜日の夜に祈り会を行なっていますが、牧師が出張で不在の時など、一年に数回ですが、賛美集会として行ないます。この祈り会には現在会員の約半数の15名(平均)が毎回出席していますが、6月3日は通常のメンバーに加え、最近教会に来られるようになった新しい方々も出席され、"先のものもあとのものも"共に、DVD「新生讃美歌プレゼンテーション」を見ながら、バプテストの賛美歌の歴史を学ぶことが出来ました。賛美の歴史のいくつかの節目、ポイントとなる出来事など、長く教会員である方も初めて聞く話も多く、興味深く見る事が出来たと思います。

2003年刊行の『新生讃美歌』が、伝統的な古い讃美歌、19~20世紀のアメリカのバプテスト賛美歌のみならず、アジアや他の国々の新しい賛美歌、そして、諸教会につながる兄弟姉妹…身近にお顔を思い浮かべることの出来る方々の証として作られた歌…と多岐に亘る選曲によるもので、その編纂の方針を改めて知り、労を執られた方々のご苦心に感謝したいと思いました。また、日本語翻訳、天皇賛美を想起させる語の使用等についての課題、新しい賛美を生み出すことに対する主体的な課題を分かち合うことができたのも幸いでした。

函館美原教会では、『新生讃美歌』に同じ曲が掲載されていても、メッセージのテーマに相応しいものであれば、日本基督教団出版局の『讃美歌』（1954年版）を用いることもありますし、主日礼拝ではこどもメッセージの前後にプレイズソングを必ず歌うなど、比較的自由に「賛美」をしています。一方で、曲調、歌詞のテーマ、用語が集う者にとって相応しいものか、選曲の際には「メッセージ」であることを中心に吟味しています。今後もひとりひとりが喜んで賛美、礼拝する群れでありたい、という思いを新たにしました。

●DVD「新生讃美歌プレゼンテーション」（2014年度宣教部にて発行）をぜひ、賛美の学びのためにご活用ください。DVDを追加注文したい場合はお問い合わせください。（無料）

●「新生讃美歌に親しむ」講習会を開催しませんか？ 連盟から講師を紹介します。費用の面でもご相談ください。

*7月12日 相模中央教会座間伝道所、8月2日には広島教会で中国四国地方連合の北ブロックの教会が集まり「新生讃美 歌に親しむ会」が開催されます。



創作賛美歌集 案内

福岡地方連合教会音楽委員会より

2014年度福岡連合音楽委員 岩崎 光洋（自由ヶ丘）

2015年3月に福岡地方連合教会音楽委員会から創作賛美歌集「We sing for You」が発行されました。これは同委員会が2011年度から2014年度まで集中的に取り組んだ賛美歌創作運動の集大成とも言えるものです。教会形成と礼拝の活性化を願い、会衆賛美として歌うことを前提として地方連合内の諸教会で生み出された創作賛美歌から14曲が収録されています。説教の応答賛美用に書かれた歌、教会の年間主題を深めた歌など、様々な賛美歌が収録されています。（巻末にそれぞれの曲解説が載っています。）ご希望の方には無料で配布（送料実費負担）されていますので、福岡地方連合教会音楽委員会（委員長：藤寿、那珂川伝道所 092-953-4427）までお問い合わせください。

12. 共に

作詞：高倉 祐太・伊藤 聡

作曲：伊藤 聡



1. 主 イエスは—いつもともにおられ
 2. いのりは—おおきなちからだから
 3. あなたの—あしにわたしになり



どんなときもみはなさずちからとってくださる
 どんなこともいの—ってみむねをとうてゆきます
 わたしの—ひと—みにあなたがな—てください



かなしみくるしみいたみに—も—たえて
 いの—ってゆくときわたしたちのねがいは
 あなたとわたしはキリストのからだです



ともにうけとめあゆんでくださる
 やがてかみ—のみむねにかえられ
 きょうかいで—あいきょうかいでまなび



このかたを主とあがめてゆこう
 そしていのりはかならずかなう
 ともに主イエスとあゆんでゆこう

作詞された高倉さんは、皮膚炎で片目を失明しもう片方も失明するかもしれない日々に、全身の痛みと十字架の痛みを重ね、信仰を支えに歩んでいます。様々な障がいがある仲間と「共に」主イエスと歩むことを呼びかける賛美歌です。伊藤聡（篠栗）



米国高校生クワイヤミッションツアー

米国のスモークライズ バプテスト教会の「高校生コーラス・ミッション・ツアー」は、金沢教会のローラ&カーソン・フーシーCBF宣教師のコーディネートにより、金沢教会が受け入れ主体となって実現に至ったものです。主な日程は6/14(日)主日礼拝奉仕とコンサート(金沢教会)から始まり、6/16(火)西南学院大学・高校・中学 各チャペル、6/17(水)コンサート(豊前教会)、6/18(木)コンサート(広島教会)、6/20(土)ミュージック・キャンプ---合同聖歌隊ワークショップと青少年リーダー対象のセミナー(会場:大井教会)、6/21(日)主日礼拝奉仕(浦和教会)、午後のミュージック・キャンプ参加メンバーとの合同コンサート(大井教会)で、6/20(土)~21(日)では、加盟教会の教会員有志による「ミュージック・キャンプ2015実行委員会」が立ち上げられることとなり、連盟宣教部からは教会音楽室の江原美歌子室長が協力しました。

猛暑の前のしのぎやすい気候でしたが、短期間で日本を縦断する過密スケジュールで、各地で9名の高校生クワイヤメンバーと、講師・スタッフ6名は賛美による証しを届けられ、また、出会いと交流が豊かに導かれました。ここに、広島教会でのコンサート報告、ミュージック・キャンプ参加者による感想と、セミナー報告をご紹介します。

●米国高校生クワイヤミッションツアーを迎えて

高橋 麗(広島)

広島でのコンサートは「被爆70年を覚えて」とのサブタイトルを加え企画いたしました。到着早々、広島名物お好み焼きをご賞味頂き平和公園、資料館見学、教会員による被爆体験の証しなどを聞きました。教会の女性たちが作ってくれたという折り鶴を携え、「原爆の子の像」を囲み平和の歌を歌ってくれました。広島を訪れるのは初めてというユースたちでしたが、それぞれが何かを感じ取ってくれたと思います。

広島教会では久しく平日夜に集会をすることがなくなっていたのですが、工夫を凝らした広報活動が功を奏し、期待を上回る来場で礼拝堂が満席になりました。

心温まる歌声と、高校生たちの素直な証し、広島教会聖歌隊による平和の歌に応えプログラムに加えられた独唱など、とても充実したものとなりました。

来場アンケートからは「いつも教会の前を通っているけど入るのは初めて」「郵便局に置かれていたチラシをみて来ました」「生のゴスペルを聞いたのは初めてでとても心が温かくなりました」など、今回のコンサートが伝道の機会として大いに用いられたことを感じました。

米国から熱いパッションを持って送り出され、来日してくださったチームの皆様にご心から感謝致します。



ミュージック・キャンプ スケジュール (於:大井教会)

6月20日(土) 10:00-12:00 ①聖歌隊ワークショップ ②青少年ミニストリーセミナー
12:00-14:00 昼食と交わり (フーシー宣教師によるゲームを楽しみました。)
14:00-16:00 ①聖歌隊ワークショップ ②青少年ミニストリーセミナー
6月21日(日) 14:00-16:00 合同聖歌隊練習
16:30-17:30 ジョイントコンサート
(スモークライズ高校生クワイヤの演奏、日本との合同聖歌隊、横浜JOYカップミュージック)

●ミュージック・キャンプに参加して

糟谷 紅里 (常盤台)

ミュージックキャンプに参加して、初めて同年代の海外の方と、お互いの趣味や生活のことなど色々お話しすることができて嬉しかったです。ただ、自分の英語力が足りないのと、英語の綺麗な発音やスピードに圧倒されたことで、話している内容の全てを理解することができなかつたことが少し残念です。しかし、言葉は違っていても心が通じ合っていればお話しできるということを学びました。また、賛美歌を通して心が一つになったのを感じました。教えてくださった優しい先生方や、賛美すること歌うことが大好きという思いがあつて、素敵な音楽が演奏できたからだと思います。次にお会いできるときにはもっとたくさんお話しできるように、英語の勉強にも力を注いでいこうと思います。ミュージックキャンプに参加させていただけたことにとても感謝しています。ありがとうございました。



●青少年ミニストリーセミナーに参加して

肥後 留里子 (浦和)

青少年ミニストリーセミナーの午前の部は、青少年担当牧師であるジェレミー・コリバー師の発題でした。両親の信仰でも、教会の信仰でもなく、青少年自身がイエスキリストと出会い、信仰を持つためにリーダーが何を心がけるべきかについてお話しいただきました。リーダーが、真摯に自身の信仰と向き合うことから青少年との信頼関係を築くことの大切さ。青少年の賜物を見出し、それを用いる場を教会の内外に探すこと。神様の宣教は何なのか、自らの賜物を用いてどのようにその宣教に仕えることができるかを共に考えること。青少年が直面する悩みや喜びを神様の物語として再解釈してゆく手助けをすることなどです。

午後の部では、伝道担当牧師であるティム・アドコックス師による発題でした。1980年～90年代のアメリカの伝道のあり方から変化してきた今の様子をお話しいただき、興味深かったです。教会の外に出かけてゆく場合も、こちらの思いが先行した「福音を宣べ伝えるぞ」という態度ではなく、相手の話に耳を傾け、また、どのようにその人に仕えていけるかに心砕くことだと言われました。その最初の働きかけをTouch(触れること=関係性を築くこと)という単語で表現されました。そして、地域に対して、教会はどのようなTouchができるだろうか、ということグループで話し合いました。Touchした相手を次の段階で急に礼拝に誘う、ということはず、求められれば礼拝の案内をする程度にしておくこ

とが大切とも言われました。また、アメリカの教会数は減少傾向にあり、過去の栄光を追い求める声もあるが、未来に目を向け、これから何ができるかを模索していて、今回、日本へ青少年たちを連れて来たことも将来への投資なのだとされていました。このミュージックキャンプによせるスモークライズ教会の皆さんの熱い祈りを感じた一言でした。

第32回教会音楽祭報告

稲葉 恭子（常盤台）

教派を超えたキリスト教信者が一堂に集まり、賛美礼拝を捧げる教会音楽祭。近年は2年毎に開催されていますが、32回目を迎える今年は、5月31日(土)にウエスレアン・ホーリネス淀橋教会にて、開かれました。

今年のテーマは、「Dona nobis pacem～とどけ、平和を求める祈りと賛美～」。プログラム中、カトリック東京司教区の小宇佐敬二司祭の説教では、人が力によってもたらす平和ではなく、神による平和の原点はイエス様ご自身が身を以って示された神様の愛によって、互いに赦し合い大切にしよう事であるとのメッセージをいただきました。また、「平和のための共同祈願」を各参加教会代表と会衆との交読により祈り合わせる時も持ちました。

参加した団体は、在日華クリスチャンセンター(JCC)、日本聖公会東京教区聖歌隊、カトリック東京韓人教会・カリタス聖歌隊、イエスのカリタス修道女会・スモールクワイヤー、日本語賛美グループ、コミュニティ・アーツ・東京シンガーズ(CATS)。各団体が、日本語、中国語、韓国語、英語、それぞれの言語で賛美し、また、全団体合同での賛美もお捧げし、共に平和を祈る時となりました。

私の印象に残ったことは、カトリック韓人教会カリタス聖歌隊による賛美です。民族の民謡的な旋律で太鼓の力強いリズムに乗せて歌い上げる賛美で、私自身は韓国語は分からないものの、主を心から喜んで賛美する心が伝わり、圧巻でした。カトリックというと、もっと伝統的な音楽を保っているものとのイメージを持っていましたので、自らの思い違いを知らされました。もちろん、カトリック韓人教会の日頃の礼拝での賛美全てがこのようなスタイルであるかどうかは分かりませんが、賛美歌は時と賛美する人々により新しく生まれていくものなのだと思います。

今回、日本語賛美グループはルーテル派のリードにより、参加が呼びかけられ、各教派より参加者が与えられ、当日は合わせて約60人ほどの聖歌隊が結成され、日本同盟基督教団等々力教会の井上義牧師のご指導・指揮によって、いずれもM・ルターの原曲の2曲

- ・「新しい賛美、われら主に」(曲：J・ヴァルター 訳：井上義) (無伴奏にて)
- ・コラル・カンタータ「平和をください」(曲：メンデルゾーン 訳：森田稔教) (ピアノ伴奏にて)
- ・「詩編134編」(曲：J・Pスヴェーリンク 訳：井上義) (無伴奏にて)

の計3曲を賛美させていただきました。4パートはパートごとには固まらず、パートがランダムに配置した状態で歌いましたので、賛美する者の身にもハーモニーが心地よく響いたように思います。日頃は、それぞれの教会、それぞれの教派での礼拝を守っている私たちが主によって集められ、一つになって賛美をお捧げするのは、本当に恵みの時でした。

当日までの練習は4/11の音楽セミナーと当日を含む、計4回の合同練習と、井上義牧師の等々力教会での計5回の練習会がありました。私は、合同練習にはほとんど参加出来ず、練習会に3回出席しました。練習会は少人数で和やかな雰囲気の中で進められ、普段は会う事のない様々な教会の兄弟姉妹方と暖かいお交わりの時を与えられました事を、主に感謝いたします。

教会音楽室からのお知らせ

第12回全国礼拝音楽研修会日程（案）2016年5月4（水）～6日（金）

今年度の礼拝音楽研修会の開催はありませんが、来年度は連休後半の5月4～6日、天城山荘にて開催予定です。今年の秋の定期総会の承認を経て最終決定していきますが、今からその日程を祈りに覚えてご計画くださることを願っています。研修会終了日をゴールデンウィーク最終日を避けて平日6日の金曜日としました。

テーマは「礼拝」。参加者が音楽担当者に限られてしまいがちな「音楽研修会」ですが、すべての信徒が参与する「礼拝」のさまざまな奉仕者が集って学びあうことができるように、今から計画しています。こんな分科会があれば！というようなご要望もぜひお寄せください。

奏楽者育成のために

1 やさしい伴奏譜を発行しました。あらたに20曲を追加し、10曲単位で500円、これまでのものすべて注文すると27曲で1350円となります。このやさしい伴奏譜の編曲者の美登恭子さん（高須）は、東京北教会におられる娘さんのために簡単な楽譜を編曲することをはじめられたということで、それらの楽譜から紹介させていただいています。他にも、教会ごとにやさしい伴奏譜を作成されているところもあるのでは？ 協力伝道の働きとして、皆さまがたの取り組まれている編曲等をご紹介いただき、著作権など問題のないものは、ぜひ諸教会にもご案内していきたいと願っています。

（「やさしい伴奏譜」の中でも取り掛かりやすいものは、『新生讃美歌』13番、18番、107番、134番、176番、615番です。ご参考ください。）

臼杵教会では、女性教会員4名が購入され、礼拝の奏楽に少しでも奉仕ができるように、学びをはじめられるとのことです。さらなる、奏楽者が生まれ育成されていくことを願っています。

2 「奏楽者講習会」を開催しませんか？

「奏楽奉仕者がいない」「奏楽曲のレパートリーがない」「新曲を紹介してほしい」「奏楽者の掘り出し」「奏楽奉仕者を広げたい」等々、たくさんの教会から声をいただいています。2015年度はそのような声にお応えし、各地域・ブロック単位（2、3の教会単位）の要望を受けて、「奏楽者講習会」の開催を支援していくサービスを提供していきます。

講師は近隣の方か、近くの連合から派遣していく形をとり、1回だけの講習に終わることなく、長期にわたる関わりを願って、学びと励まし合いが継続できるように計画していきます。

●教会音楽室からの支援内容

- 1) 講師紹介
- 2) 講師交通費補助

●開催側での準備

- 1) 担当窓口・責任者の決定と、連盟教会音楽室への連絡
- 2) 日程、場所調整
- 3) 開催と受講者募集の呼びかけ
- 4) 講師、会場教会との連絡

●受講者参加費

担当窓口責任者との相談を経て決定し、講師謝礼や、会場費にあてていきます。

●楽器（オルガン・リード、電子、ピアノ、他）、レベル

参加者の要望に応じていきます。奏楽者としての奉仕の学びも大切にしていきます。

★南九州連合の有明教会を中心としたリードオルガン奏楽講習会が具体的に決定しました。

ご参考にしたいかたは、教会音楽室までお問い合わせください。

以上、どのようなご質問でも結構です。教会音楽室、江原048-883-1091（火、木曜日）

ehara@bapren.jp（いつでも）までお問い合わせください。